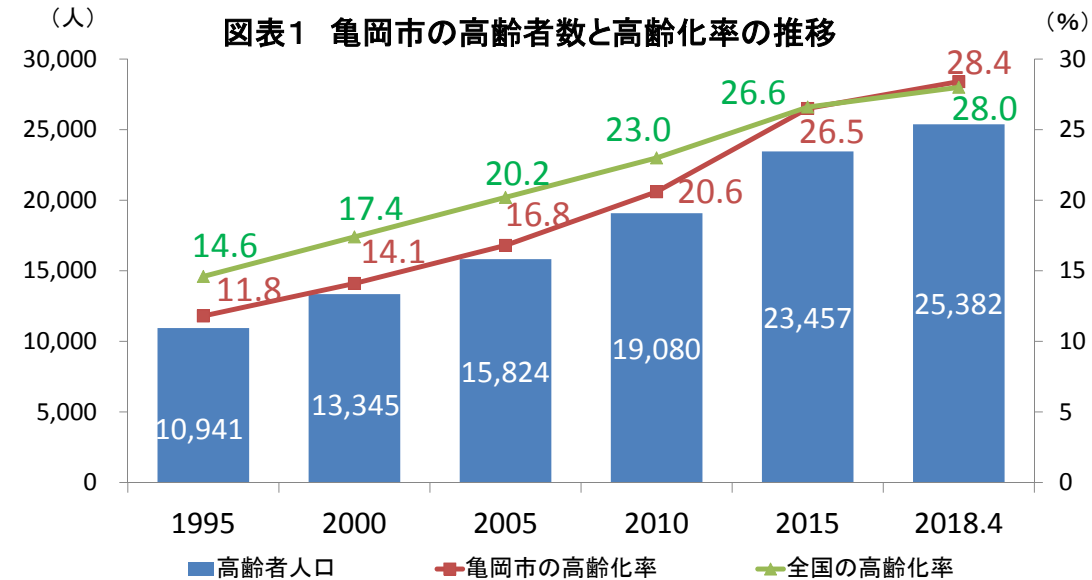


高齢者の安全対策委員会

発表日 平成30年7月4日
発表者 高齢者の安全対策委員会
委員長 木村 みさか

1

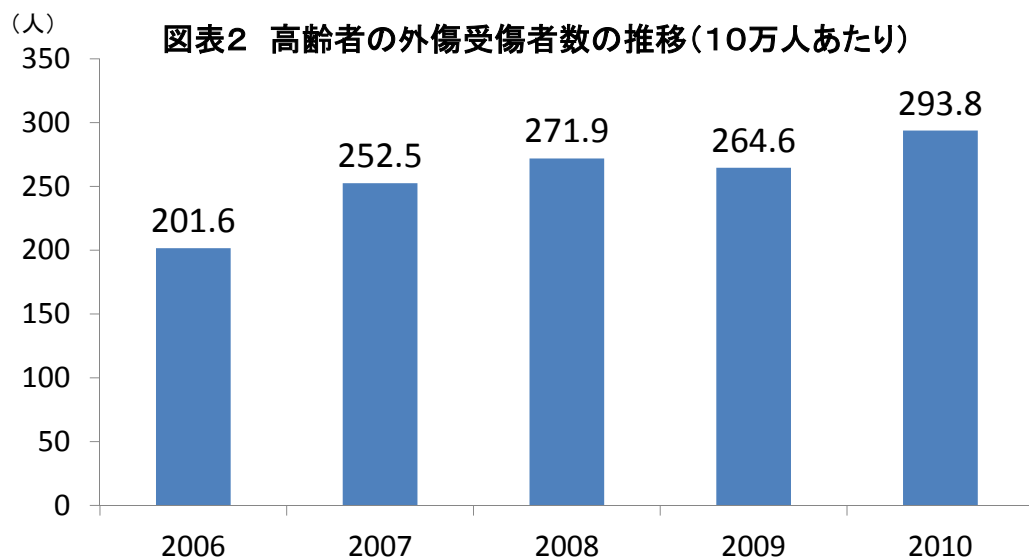
2011年「高齢者の安全対策委員会」を設置 理由① 「高齢化が進んでいる」



2

理由②

「高齢者10万人あたりの外傷受傷者は年々増加している」



3

高齢者の安全対策委員会構成

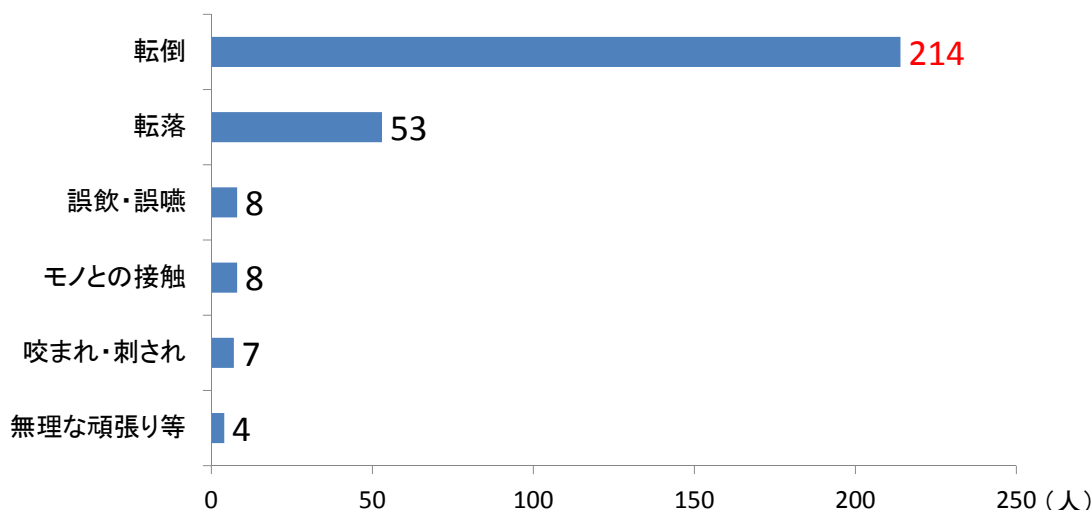
区分	所属団体	役職
市民団体等	1 千歳町自治会 会長	副委員長
	2 宮前町地区社会福祉協議会 会長	
	3 亀岡市民生委員児童委員協議会 会長	
	4 篠町自治会 会長	
	5 亀岡市老人クラブ連合会 副会長	
関係機関等	6 京都学園大学 健康医療学部 教授	委員長
	7 京都学園大学 経済経営学部 特任教授	
	8 亀岡市篠地域包括支援センター センター長	
行政関係	9 京都府南丹保健所 企画調整室長	
	10 亀岡市高齢福祉課 課長	
	11 亀岡市健康増進課 課長	
	12 亀岡市保険医療課 課長	
	13 亀岡市自治防災課 課長	

4

データから見る亀岡市の実態(継続課題)

「高齢者の受傷原因は転倒が最も多い」

図表3 救急搬送された高齢者の受傷原因



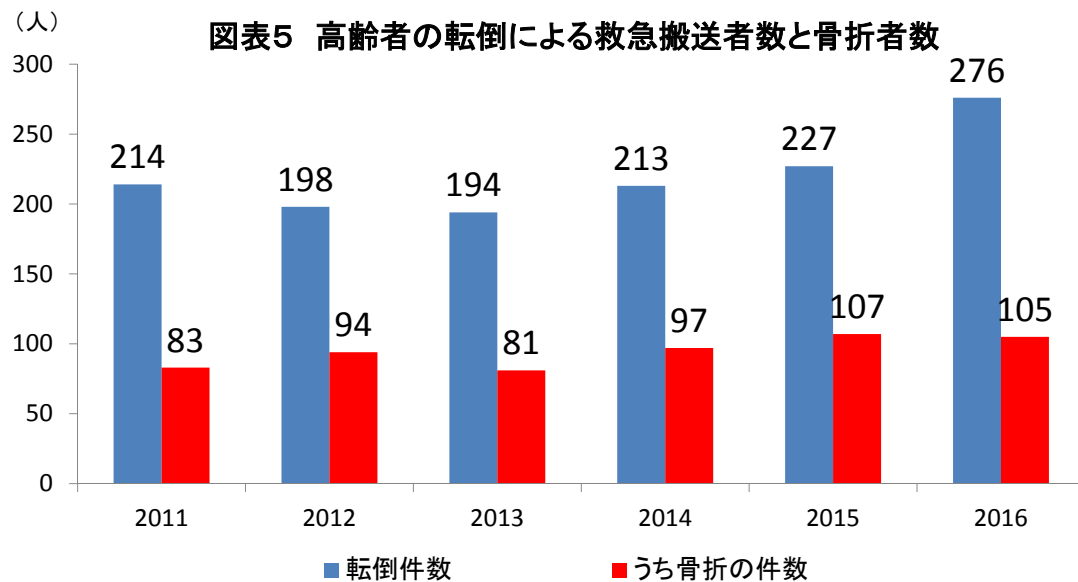
出典: 救急搬送データ(2011年)

5

データから見る亀岡市の実態(継続課題)

「転倒者の約40%が骨折している」

図表5 高齢者の転倒による救急搬送者数と骨折者数



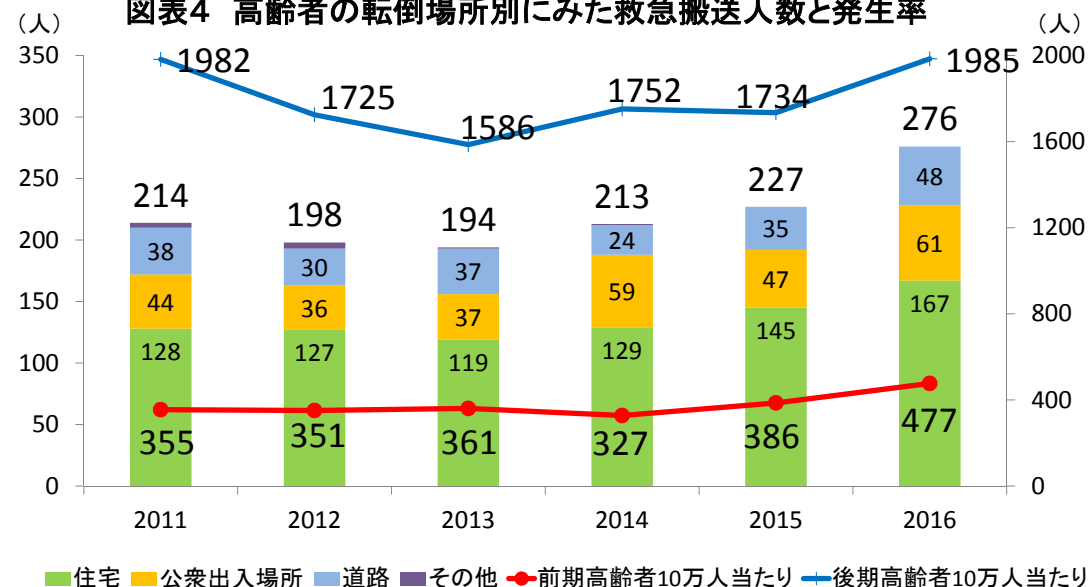
出典: 救急搬送データ

7

データから見る亀岡市の実態(継続課題)

「高齢者の転倒発生率は増加傾向にある」

図表4 高齢者の転倒場所別にみた救急搬送人数と発生率



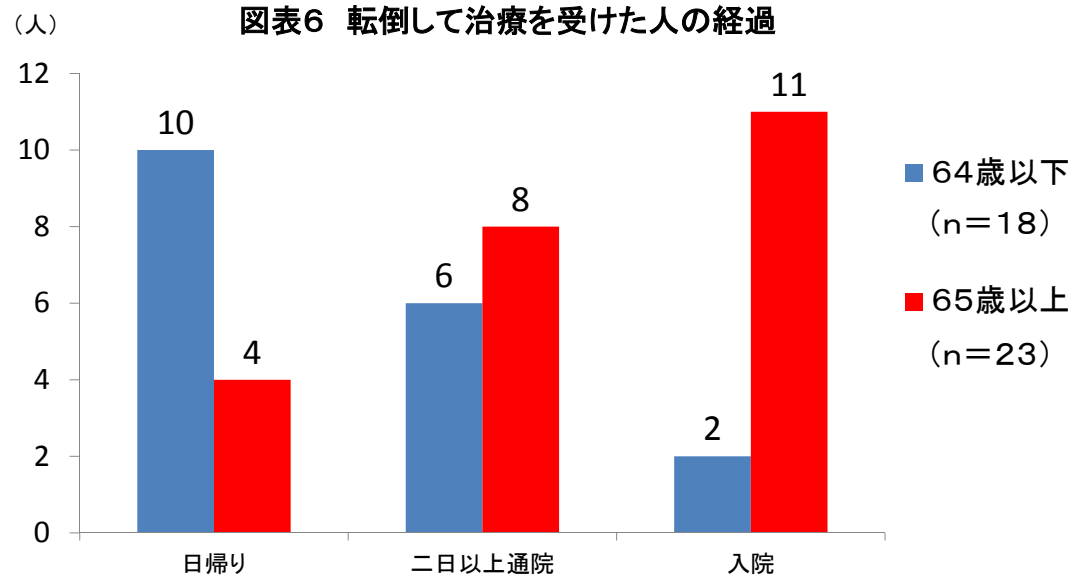
出典: 救急搬送データ

6

データから見る亀岡市の実態(継続課題)

「高齢者は転倒すると入院することが多い」

図表6 転倒して治療を受けた人の経過



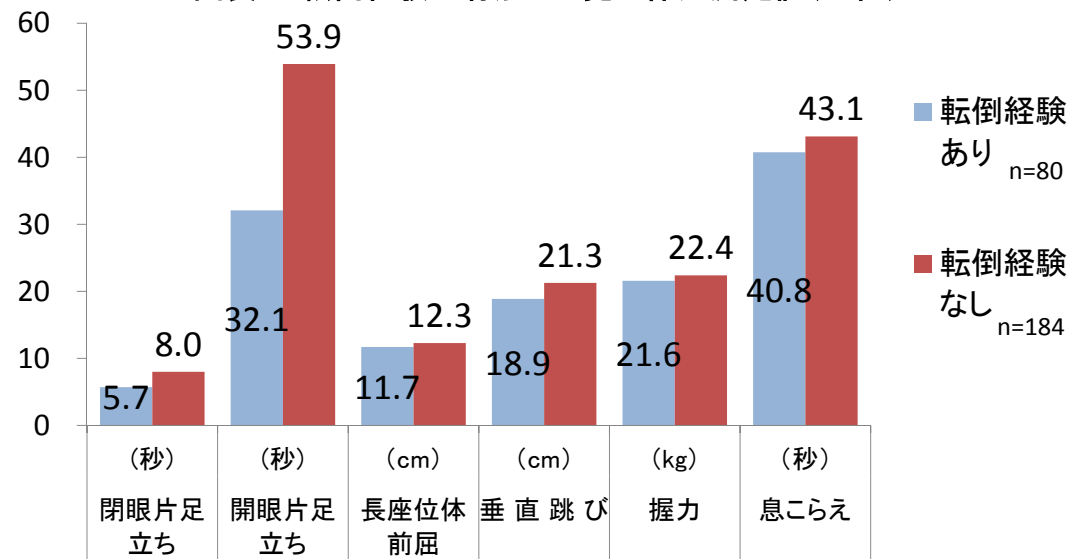
出典: 亀岡市SCアンケート調査(2016)

8

データから見る亀岡市の実態(継続課題)

「高齢者の転倒は運動機能の低下が主たる要因」

図表7 転倒経験の有無から見た体力測定値(女性)



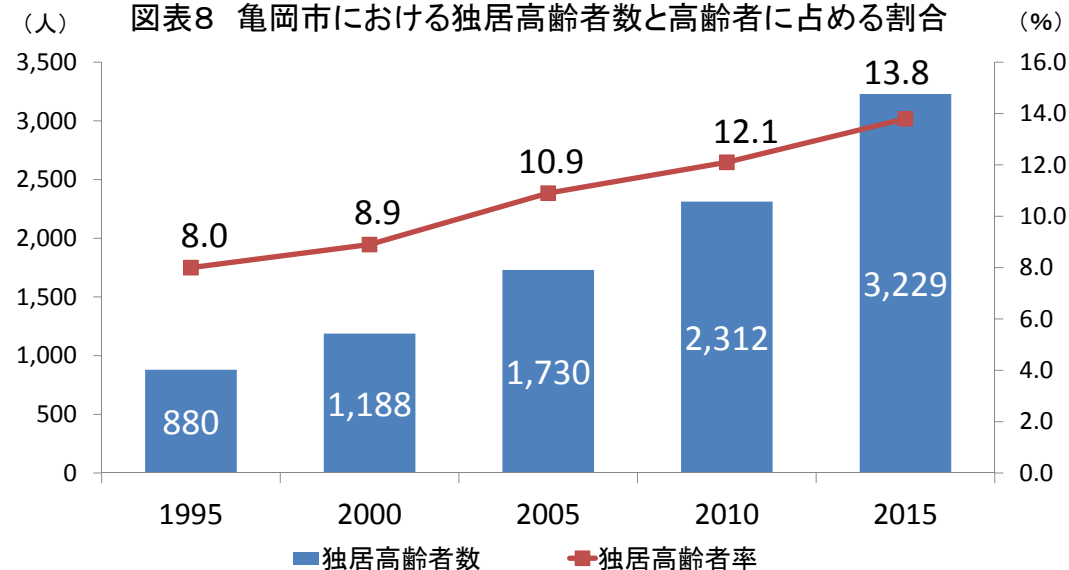
出典：木村ら (2000)

9

データから見る亀岡市の実態(継続課題)

「独居高齢者が増加している」

図表8 亀岡市における独居高齢者数と高齢者に占める割合



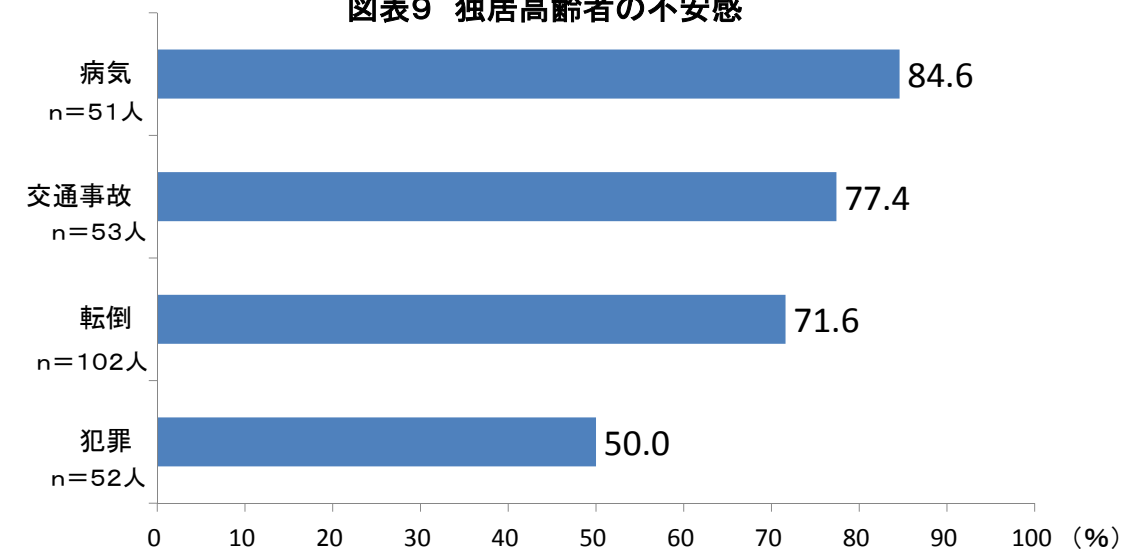
出典：国勢調査

10

データから見る亀岡市の実態(継続課題)

「独居高齢者は病気、交通事故、転倒の順に不安を感じている」

図表9 独居高齢者の不安感



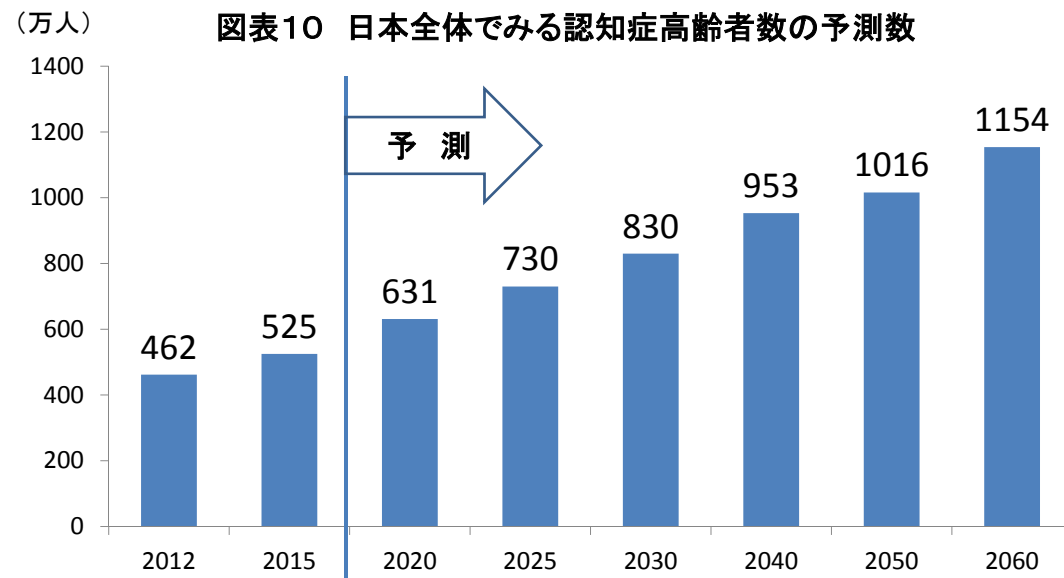
出典：亀岡市SCアンケート調査 (2016)

11

データから見る日本の実態(継続課題)

「認知症高齢者の増加が予測される」

図表10 日本全体でみる認知症高齢者数の予測数



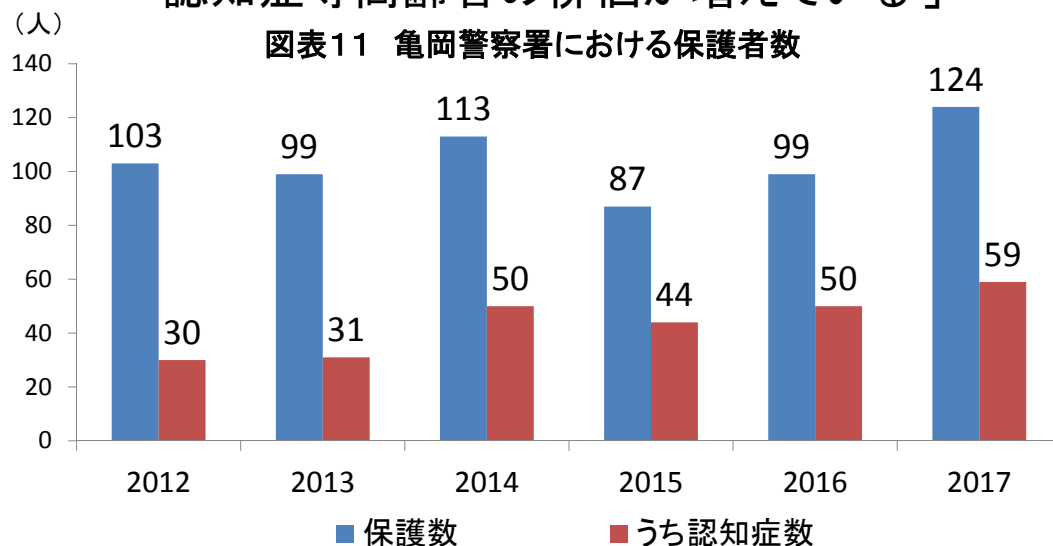
出典：内閣府高齢社会白書 (2016)

12

データから見る亀岡市の実態(新規課題)

「認知症等高齢者の徘徊が増えている」

図表11 亀岡警察署における保護者数



※徘徊という言葉は「あてもなく歩きまわること」とされていますが、認知症患者は「理由や目的があって出歩く」ことから、対策委員会では適切な表現ではないと考え、別の表現を検討中です。しかし現時点では結論が出ていないため、今回は徘徊という言葉を使用しています。

出典: 亀岡警察署 13

課題解決のための方向性と対策

実 態		課 題		方向性(対策)
・(継)高齢者の受傷原因は転倒が最も多い ・(継)高齢者の転倒件数は増加傾向にある ・(継)高齢者は転倒すると骨折や入院することが多い ・(継)高齢者の転倒は運動機能の低下が主たる要因	→	高齢者の転倒による外傷の減少	→	①高齢者に対する運動プログラム
・(継)独居高齢者が増加している ・(継)高齢者の病気や転倒への不安感が強い	→	独居高齢者が安心して暮らす	→	②命のカプセルを配布
・(継)認知症高齢者の増加が予測される ・(新)認知症等高齢者の徘徊が増えている	→	認知症等高齢者の安全の確保	→	③認知症等高齢者徘徊早期発見プログラム

15

課題の整理

データに基づくもの

- ・(継)高齢者の受傷原因は転倒が最も多い(図表3)
- ・(継)高齢者の転倒件数は増加傾向にある(図表4)
- ・(継)高齢者は転倒すると骨折・入院することが多い(図表5、6)
- ・(継)高齢者の転倒は運動機能の低下が主たる要因である(図表7)
- ・(継)独居高齢者が増加している(図表8)
- ・(継)高齢者の病気や転倒への不安感が強い(図表9)
- ・(継)認知症高齢者の増加が予測される(図表10)
- ・(新)認知症等高齢者の徘徊が増えている(図表11)



重点課題の設定

14

レベル別の対策

別添資料を御覧ください

16

レベル別対策の事例紹介

生活環境を整える住宅改修制度

手すりの取り付け

段差や傾斜の解消

転落防止柵の設置

滑りにくい床材・移動しやすい床材への変更

17

プログラムの運営状況

	進行状況					計画
	2013	2014	2015	2016	2017	2018
高齢者の見守り事業					全市展開	
なんたん元気づくり体操					組み入れ	
高齢者に対する運動プログラム					継続	
命のカプセル					継続	
認知症等高齢者徘徊早期発見プログラム					新規	

18

①高齢者に対する運動プログラム(継続)

実 態	高齢者の外傷は、転倒が最も多い	
課 題	高齢者の転倒による外傷を減らす	
内容等	【内容】	健康に関心の薄い高齢者に対し、地域に出向き転倒予防体操を実施
	【対象】	高齢者
(短・中期) 態度や行動の 変化	【指標】 参加者の意識、活動量・体力値	【測定】 参加者のアンケート調査、日常生活の運動時間や運動能力を測定
(長期) 状態や状況の 変化	【指標】 高齢者の転倒経験、医療費及び介護給付費	【測定】 参加者のアンケート調査、国民健康保険・後期高齢者医療保険における医療費及び介護保険給付費

19

高齢者に対する運動プログラムの介入状況

プログラム内容を研究グループと協働開発

運 動

口腔ケア

栄 養

～研究グループ～

京都学園大学・京都府立医科大学・京都大学・立命館大学・国立健康栄養研究所・東京都健康長寿医療センターなど

20

高齢者に対する運動プログラムの介入状況

高齢者が参加しやすいように運動教室を各地で開催



21

プログラムの活動実績(1)

	実績と今後の予定	実績				
		2013	2014	2015	2016	2017
運動教室	運動介入プログラム参加者	10町 510人	219人	継続 250人 250人 250人		
	運動量・体力測定		773人	継続 700人 700人 570人		
介護予防 サポーター 養成講座	介護予防サポーター累計数	98人	157人	230人	302人	346人
	サポータースキルアップ講座参加者数	40人	50人	60人	72人	42人

22

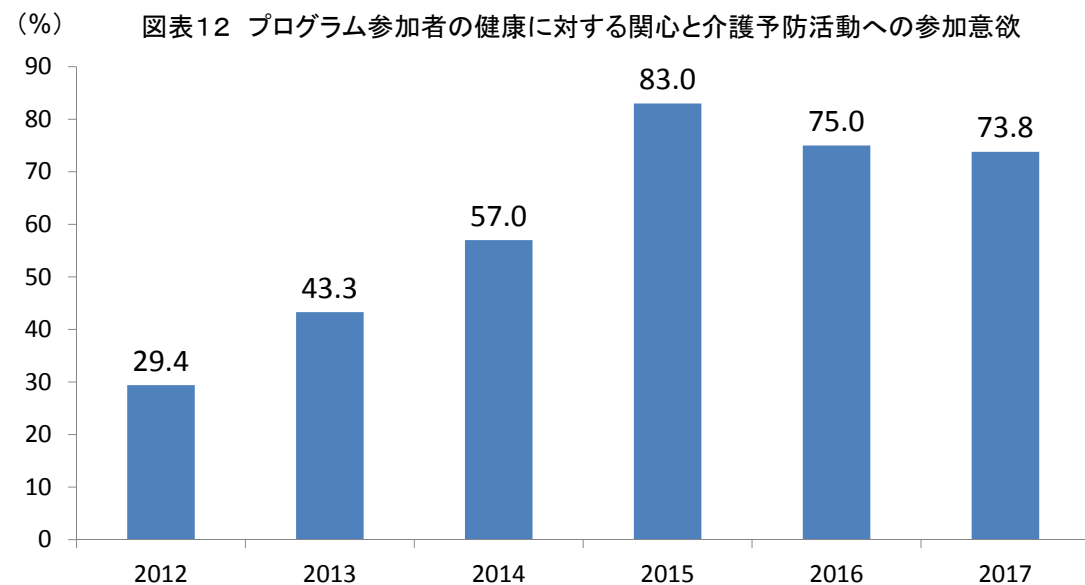
プログラムの活動実績(2)

対策委員会の関わり	工夫点
委員がそれぞれの役割を果たしている ・京都学園大学 →運動プログラムの実施 ・自治会関係 →地域での活動場所の調整と提供 ・民生委員、包括支援センター →制度の周知活動	高齢者が参加しやすいように地域へ出向き転倒予防体操を実施している

23

プログラム評価(短期)

「健康に対する関心と介護予防活動への参加意識は高い」



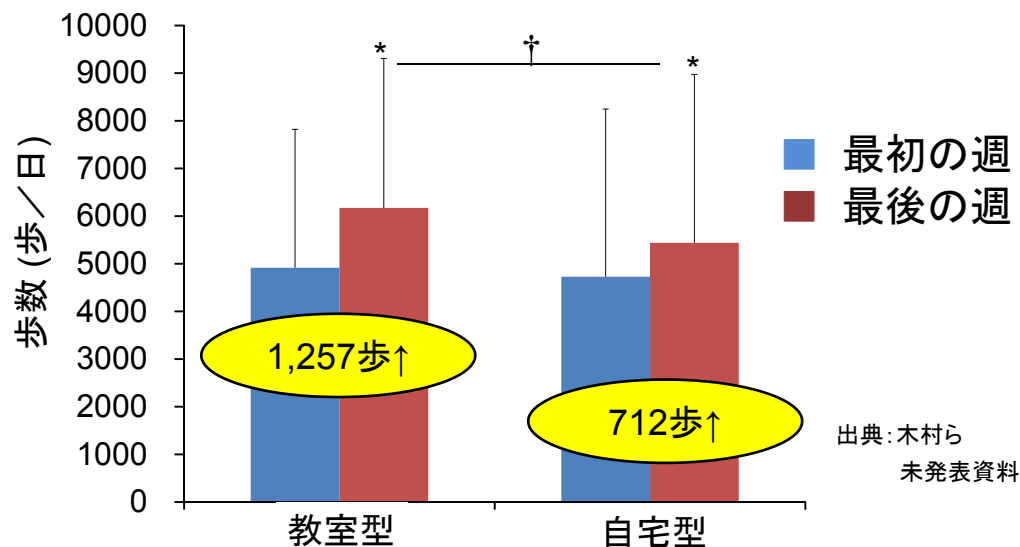
出典：高齢者の安全対策委員会

24

プログラム評価(短期・中期)

「運動介入プログラム実施後は平均歩数が増加している」

図表13 運動介入プログラム実施前後の参加者の平均歩数



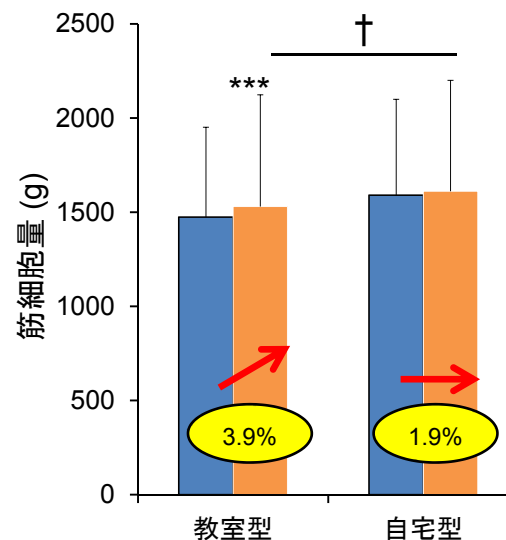
(調査対象: 約500名) *: 介入前との差($p < 0.01$); †: 群間の差($p < 0.01$)

25

プログラム評価(短期・中期)

「運動介入プログラム実施後は筋細胞量が増加している」

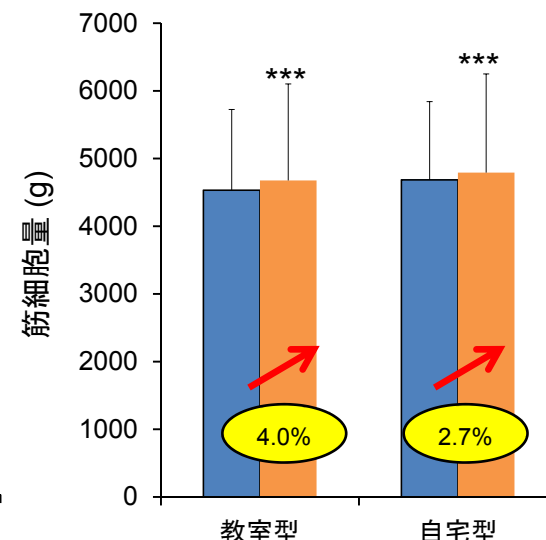
図表14 プログラム介入前後の上肢筋細胞量



(調査対象: 約500名)

■ 介入前 ■ 介入後

図表15 プログラム介入前後の下肢筋細胞量



出典: 木村ら未発表資料

26

②命のカプセルプログラム(継続)

実 態	独居高齢者は、病気や転倒などに不安を感じている	
課 題	・独居高齢者が安心して暮らす ・救急時に的確な情報を把握することで重症化を防ぐ	
内容等	【内容】	救急時に必要な情報(かかりつけ医療機関、服薬内容、病歴等)が入ったカプセルを高齢者宅の冷蔵庫に配備する
	【対象】	独居高齢者、高齢者のみ世帯(基本70歳以上)
(短・中期)配布数と使用数	【指標】 命のカプセル配布数	【測定】 救急搬送時のカプセル活用件数
(長期)状態や状況の変化	【指標】 高齢者の不安感の割合	【測定】 セーフコミュニティアンケート調査

27

命のカプセルプログラムの活動状況



28

プログラムの活動実績

対策委員会の関わり	工夫点
民生委員児童委員がカプセルの配布を行っている	対策委員会が情報の更新を提案し、包括支援センターの職員が随時カプセル内の情報更新を呼びかけている。

29

プログラム評価(予定)

高齢者の病気等に対する不安感				
	まったく不安でない	あまり不安でない	不安である	非常に不安である
独居高齢者 (n=51)	0%	15.4%	73.1%	11.5%
高齢者 (n=375)	5.6%	27.8%	52.5%	14.1%

出典：セーフコミュニティアンケート(2016)

31

プログラム評価(短期・中期)

「配布数は減少傾向、活用件数は増加傾向」

命のカプセルの配布数と使用数

	実 績				
	2013	2014	2015	2016	2017
配布数	314人	458人	1,150人	979人	760人

	2013	2014	2015	2016	2017
使用件数 (総配布数)	40件 (n=314)	38件 (n=772)	7件 (n=1,922)	16件 (n=2,901)	35件 (n=3,661)

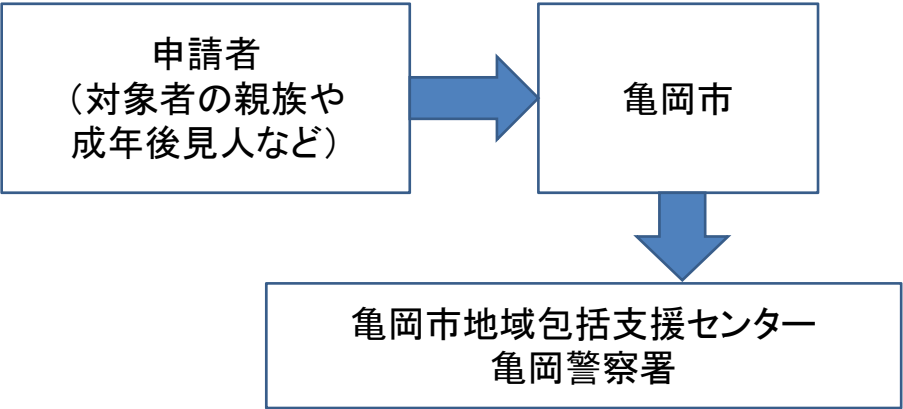
出典：亀岡消防署 30

③認知症等高齢者徘徊早期発見プログラム(新規)

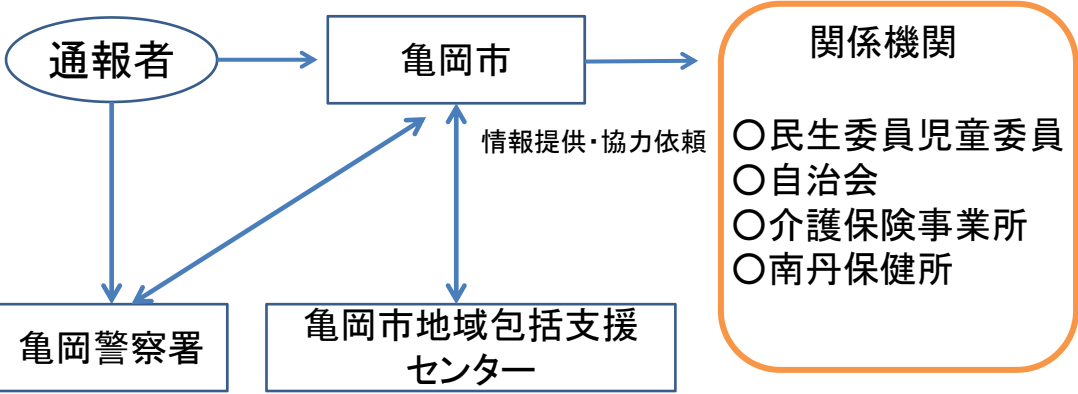
実 態	認知症等高齢者の徘徊が増加している	
課 題	認知症等高齢者の安全を確保する	
内容等	【内容】	認知症等高齢者が行方不明時に早期発見できるシステムを構築する
	【対象】	認知症等高齢者
(短・中期) 態度や行動の変化	【指標】 制度の認知度、活用件数	【測定】 事業の実施状況報告、セーフコミュニティアンケート調査
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 認知症等高齢者の行方不明件数	【測定】 亀岡警察署等からの報告

32

事前登録制度の概要



行方不明になったとき



行方不明高齢者発見 事前登録書				登録No.
○登録者の情報				写真
フリガナ氏名	フリガナ氏名 (旧姓)	性別	男・女	
生年月日	明治・大正・昭和 年 月 日			
住所				
電話番号				
身長	cm くらい	体重	kg くらい	
体型	肥・小肥・中肉・やせ			
めがね	有・無 (レンズ: 緑:)			
頭髪	長髪・短髪・その他 () (色:)			
よく行く場所				写真
かかりつけ医 (医療機関: 主治医)			電話番号	
担当ケアマネ (介護士・ケアマネ)			電話番号	

事前登録書の内容

- ・氏名など基本情報
- ・身長、体重
- ・体型
- ・めがねの有無
- ・頭髪
- ・写真

QRコード付の名札を服に貼る



靴用反射材シール



37

気づきや変化

- 様々な関係機関と連携することで、根拠に基づいた取り組みができ、経済効果の分析にもつながった。
- 他のSC自治体の取組事例を検討し、高齢者の安全対策委員会において詳細に検討したことで、新たな取り組み(靴用反射シール)につながった。

実績と今後の予定	実 績		対策委員会の関わり	工夫点
	2016	2017		
認知症等高齢者事前登録制度	新規 30人31人		制度運営に係るアドバイス	・交通安全との両立
QRコード付名札の配布	新規 30人31人			
認知症等高齢者靴用反射材シールの配布	新規 デザインの検討	新規 シールの作成・配布(50人)	靴用反射材シールのデザイン・配布方法の検討	・個人情報保護との両立

38

38

現在の課題

- 運動介入プログラムの市内全域への展開が十分に出来ていない。
- 命のカプセルの活用・周知が十分ではない。

今後の計画

SC再々認証

SC再々々認証

2018 2019 2020 2021 2022 2023

プログラム① 拡大 介護予防サポーターを核に拡大

プログラム② 継続 命のカプセルの活用推進

プログラム③ 継続 ・事前登録制度の市民への周知と広報
・靴用反射材シールを着用してもらう
工夫を検討する

41

事前審査のアドバイスを踏まえて

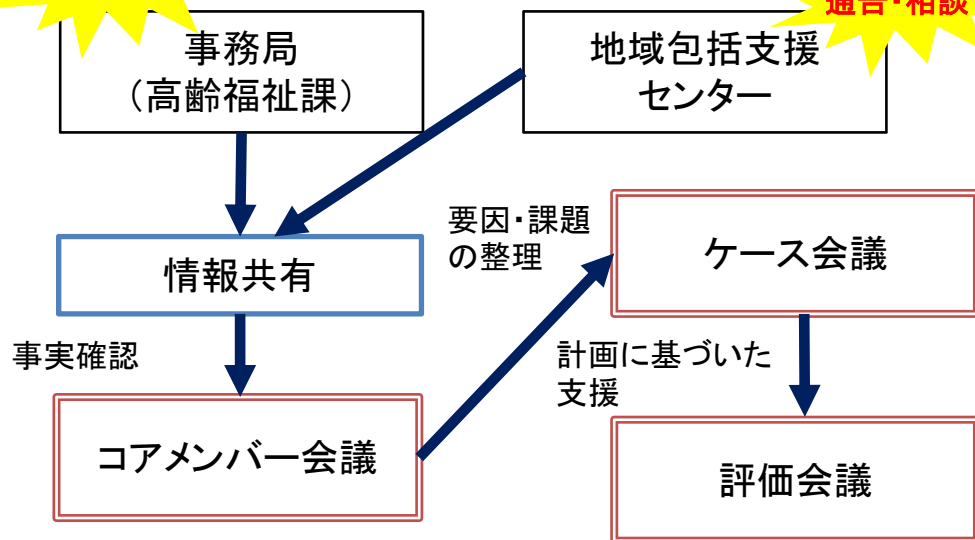
42

高齢者虐待対応状況

高齢者虐待対応体制～亀岡市高齢者虐待ネットワーク会議～

通告・相談

通告・相談

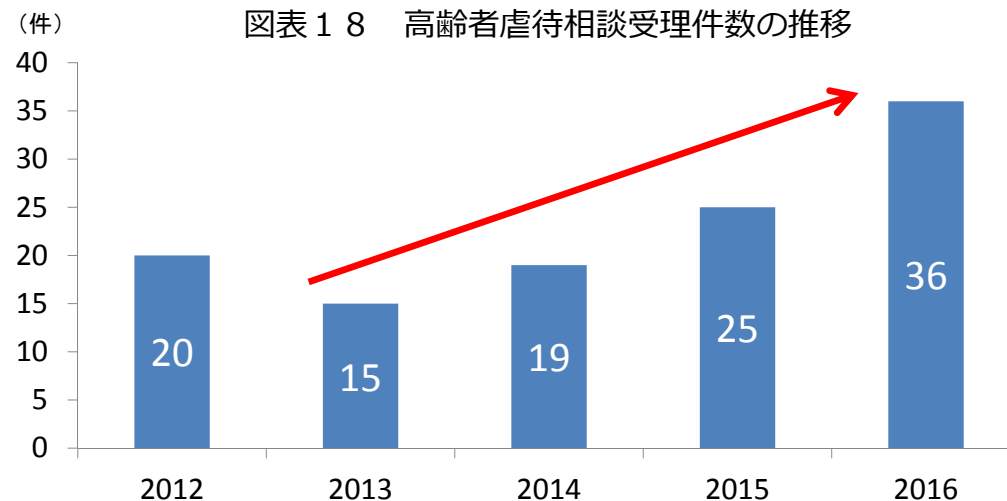


43

高齢者虐待対応状況

高齢者虐待相談件数は増加傾向

図表 1 8 高齢者虐待相談受理件数の推移



出典：京都府報告資料（亀岡市高齢福祉課）

44